


魚類図鑑 (その2)

<p>ニゴイ</p>	<p>シマドジョウ</p>
	
<p>コイ目コイ科</p>	<p>コイ目ドジョウ科</p>
<p>湖や大型の河川の中・下流域にすむ。産卵期は琵琶湖周辺では5～7月で、10cm～1mの深さの砂礫に産着される。流れのある砂礫底を好み、水生昆虫を主とした底生動物を食べる。富栄養化が進むとニゴイが著しく増加する。</p>	<p>河川上流域下部から下流域までと、湖の沿岸域にすむ。産卵期は4月下旬～6月で、小川に入って砂礫底に生える水生植物の根や茎に、卵をバラバラに産着させる。砂底ないし砂泥底を好み、砂と一緒に底生藻類や小型水生昆虫などを吸い込んで食べる。</p>
<p>ギギ</p>	<p>ナマズ</p>
	
<p>ナマズ目ギギ科</p>	<p>ナマズ目ナマズ科</p>
<p>昼間は石の下やヨシ場に潜み、主に夜間に活動し、餌をたべる。産卵期は5～8月で、石の下やその隙間に産卵する。雑食性であるが、底生動物や小魚を主にたべている。</p>	<p>河川の下流域や湖沼にすむ。産卵期は5～7月上旬で、小川や水田に入ったり、池沼の沿岸に浮く水草などに産み付けたり、底に散布する。泥底を好み、水草や岩の間に潜む。摂餌行動は主に夜間。魚類、エビ類、貝類を食べる。</p>